

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月 日

協議会名:	岡崎市交通政策会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持改善費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	【基本理念】人、まち、環境きらり。岡崎の交通まちづくり 【基本目標】1 人にやさしく安全安心な交通の実現 2 観光・交流を促進し、まちの魅力を高める交通の実現 3 円滑で快適な交通の実現 4 環境にやさしい交通の実現

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月 日

協議会名: 岡崎市交通政策会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生きた交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス㈱ 額田支所市市民病院線	額田支所前～市民病院	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、公共交通マップの作製や市内イベントにおいて沿線地域とバス路線の紹介を行い、利用促進に努めた。また、地域住民へ他路線からの乗継情報の周知を行った。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数7,611人に対し、実績利用者数は7,075人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.19%に対し、実績利用率は0.18%であり、達成することができなかった。 運行範囲が多学区にわたっており、額田地域以外への周知不足が原因と考えられる。	額田地域生活交通協議会を中心として、額田地域以外への住民への周知を図る。
豊栄交通㈱ 下山区線A	桃ヶ久保～岡崎げんき館前	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、地域協議会が主体となり、運行エリア付近である豊田市地域への利用案内を行った。また、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A 事業は計画通り実施された。	A 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数4,409人に対し、実績利用者数は4,905人であり、達成することができた。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率2.09%に対し、実績利用率は2.33%であり、達成することができた。	額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。
豊栄交通㈱ 下山区線B	北部診療所～岡崎げんき館前	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、高齢者定期券購入費の1割を地域協議会が助成する取組を継続して行い、利用促進を図った。更に、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年10月に運行の見直しを行う。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数914人に対し、実績利用者数は777人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.35%に対し、実績利用率は0.29%であり、達成することができなかった。 ほとんど利用されていない上一色平まで運行しているなど、往復に時間がかかる等の不便な面があった。また、利用が多い診療所通院に配慮されたダイヤになっていなかったことが原因であると考えられる。	
㈱西三交通 形埜地区線 (南大須・鍛冶コース)	北部診療所～須淵橋～北部診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、高齢者定期券購入費の1割を地域協議会が助成する取組を継続して行い、利用促進を図った。更に、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年10月に運行の見直しを行う。	A	B コース上の坂道に雪が積もり、車体がスリップする恐れがあったため、1日運休となったが、その他は計画通り実施された。	
㈱西三交通 形埜地区線 (切山・小久田コース)	上一色平～北部診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、高齢者定期券購入費の1割を地域協議会が助成する取組を継続して行い、利用促進を図った。更に、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年10月に運行の見直しを行う。	A	B ほとんど利用されていない上一色平まで運行しているなど、往復に時間がかかる等の不便な面があった。また、利用が多い診療所通院に配慮されたダイヤになっていなかったことが原因であると考えられる。	
㈱西三交通 形埜地区線 (毛呂・井沢コースA)	うつぎ～北部診療所～本郷～北部診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数441人に対し、実績利用者数は410人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.38%に対し、実績利用率は0.44%であり、達成することができた。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	
㈱西三交通 形埜地区線 (毛呂・井沢コースB)	北部診療所～本郷～北部診療所～うつぎ～北部診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数480人に対し、実績利用者数は442人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.15%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	
岡東運輸㈱ 宮崎地区線 (運行期間:平成28年10月～平成29年3月)	宮崎小学校～ナカシバ電工前～高雲寺～木下公民館～千町上～宮崎市区市民ホーム前	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数441人に対し、実績利用者数は410人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.38%に対し、実績利用率は0.44%であり、達成することができた。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	額田地域生活交通協議会を中心として、額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布に加え、地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。
岡東運輸㈱ 宮崎地区線(大雨河ルート) (運行期間:平成29年4月～平成29年9月)	宮崎診療所～松井商店前～ナカシバ電工前～高雲寺～宮崎診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数480人に対し、実績利用者数は442人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.15%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	
岡東運輸㈱ 宮崎地区線(千町上ルート) (運行期間:平成29年4月～平成29年9月)	宮崎診療所～木下公民館～千町上～宮崎診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数480人に対し、実績利用者数は442人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.15%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (夏山・鳥川コースA) (運行期間:平成28年10月～平成29年3月)	額田支所前～平針～寺野～市道～ハズノモト～星野医院	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数480人に対し、実績利用者数は442人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.15%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (夏山・鳥川コースB) (運行期間:平成28年10月～平成29年3月)	星野医院～寺野～平針～額田支所前～星野医院～ハズノモト～市道	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数480人に対し、実績利用者数は442人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.15%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (鳥川コース)	市道～ハズノモト～額田支所前～星野医院	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数480人に対し、実績利用者数は442人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.15%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線(夏山コース) (運行期間:平成29年4月～平成29年9月)	額田支所前～平針～寺野～額田支所前～星野クリニック	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	B 【利用者数】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用者数480人に対し、実績利用者数は442人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成29年度(H28.10～H29.9)の目標利用率0.15%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできたが、周知不足に原因があると考えられる。	